

## 高島市総合教育会議 会議録

日 時 平成31年1月29日（火）

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時05分

場 所 高島市役所3階 会議室11・12

出席者 市長 福井 正明

教育長職務代理者

小多 借裕

教育委員 三矢 艶子

川原林 正英

田邊 栄美子

教育長 上原 重治

事務局

（市長部局）

総務部長 岩松 充司

市民生活部長 西川 彰

子ども未来部長 饗庭 正昭

健康福祉部次長 西村 陽子

（教育委員会事務局）

教育総務部長 清水 真理子 教育指導部長 伊吹 美喜夫

教育総務部次長 北村 英明 教育総務課長 大塚 寿彦

学校給食課長 長瀬 千恵美 文化財課長 松田 邦幸

市民会館長 齋藤 清吉 市民スポーツ課長 赤水 新次

図書館長 玉木 健史 学校教育課長 川島 浩之

青少年課長 多湖 章郎

教育総務課参事 北村 洋子 教育総務課主事 岡本 健太郎

傍聴人 9名

大塚教育総務課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから、高島市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、福井市長がご挨拶申し上げます。</p>
福井市長	<p>それでは開会にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。教育委員の皆さまにおかれましては、本当に日頃からこの高島市の子どもたちの教育環境なり、あるいは学習活動等数々に渡りまして真剣にそれぞれご審議、あるいはご議論をいただいておりますことに対しまして、改めて心から感謝を申し上げます次第でございます。</p> <p>今日のこの総合教育会議は、今年度第1回ということに結果としてなります。ご存じのように、昨年は相次ぐ台風でありますとか、あるいは豪雨でありますとか様々な状況の中で、なかなか時間がない中でしたので、結果的に年が明けてしまったところがあります。昨年は11月には饗庭野演習場で迫撃砲の実弾が着弾する事案でありますとか、あるいは来週からになりますが、2月4日から日米共同訓練が開催をされ、それには高島市で2回目になりますが、オスプレイがその訓練に使用されるとか様々な課題があった1年でありました。そういう、決して言い訳ではございませんが、そういう中でしたので、今日こうして年を明けてしまったことにつきまして、ご理解あるいはご容赦をいただければと思います。</p> <p>さて、年が明けましてから、1月4日が仕事始めでありまして、その翌週から連日新年度の予算編成の作業をさせていただいております。大方のところまで来たところではありますが、あとまだ決着に至っていない件数が数件ありまして、それは今週あるいは来週中にまとめあげて、新年度の予算として編成をしなければならない、そういう作業をこうしてやらせていただいているところであります。これだけ時間がかかりますのも、事業数で言いますとだいたい750件から800件ぐらいの事業がございます。それをつぶさに1件ずつ、時間をかけて議論して、その事業が将来にとってどうなのか、あるいは厳しい高島市の財政状況を勘案して、その事業をもう少し縮減あるいは削減できないかでありますとか、あるいは将来につなげるための新規の事業・施策をこの機会に構築していかなければならない、いろんな角度から、その多くの事業を検討・議論を</p>

<p>福井市長</p>	<p>して、1件ずつ必要な予算を積み上げている、そういう作業を連日やらせていただいているところでもあります。その中で今日は、午前中教育委員会のひとつの事業について、少し議論をさせていただいていましたところでもあります。その内容を少しご披露させていただきますと、一昨年、平成29年3月ですけれども、新しい教育の指導要領が公示をされました。その小中、あるいは高校にかかる教育の指導要領でありますけれども、その中で教育現場、特に小中学校に情報関連のICTの環境を整備するべし、とりわけ小学校現場におきましては、平成、その時は平成32年ですから、今年4月には新しい元号が公表されるということでもありますけれども、平成でいきますと平成32年、西暦でいきますと2020年、小学校でのICT教育の全面実施ということが謳われてございます。同じく中学校現場では、その1年遅れで西暦2021年から全面実施ということが謳われてございまして、どうしてもその環境づくりを整備していかなければならないということでございまして、高島市では子どもたちのそういう情報関連の教育活動の一環として、平成29年から3か年計画でプロジェクターなどの大型提示の機器の整備を3年計画でやらせていただいて、平成31年が最終年になるわけであります。それと並行するような形で、間に合わせていかなければならないということで、新年度は小中の子どもたちの教育現場に、タブレットの端末導入をやらせていただこうと。小中の子どもたち、それから当然教育指導用のタブレットの端末も必要ですので、たしか合計いたしますと872台やったかな、思い切って平成31年度に導入しよう。これは買取りではございませんので、リースでやらせていただこうと。その他必要なソフトも同時に導入することになるわけですが、だいたいリース期間が5年間のリース期間で、当然5年過ぎますとまた機種を更新ということになっていくわけですが、だいたいその年間のリース料金が9,300万円、約1億円近くかかります。これは国の補助制度がございませんので、オール一般財源、市民の皆さんからの税金をそこに投入させていただこうと。こういう計画であります。確かに年間一般財源でこれだけの額というのは、厳しい財政状況の中では他を切り詰めてでもその財源を捻出しなければならない、そういう環境にあるわけでもありますけれども、教育の指導要領はもとよりであります、子どもたちの教育に</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>福井市長</p>	<p>お金を投資していくというのは、将来に向けての投資であります。ここは決して先送りすることなく、しっかりと教育環境を整えていかなければならないということで、なんとかその予算を総額の中に盛り込みをさせていただこうということで、今作業をしているところでもあります。このような状況ではありますけれども、子どもたちの教育あるいは将来この地を担っていただく子どもたちにしっかりと教育の場で育て上げていかなければならないのも、これも行政の役割でありますので、委員各位におかれましては、引き続きまして、ご理解あるいはご協力を賜りますようお願いを申し上げます。今日は予定時間が15時、一応3時までということになってございますので、私の方が進行させていただくことになりましてけれども、今日のテーマは「小中一貫教育」と、それから「地域とともにある学校づくり」、2つのテーマを事務局の方から現状あるいは課題等を説明いただいて、そして皆さんのご意見をいただきながら、新しい平成31年度、あるいはその将来に向けて、小中一貫教育、あるいは地域協働によるところの地域とともにある学校づくりについて、ご意見を賜ればというふうに考えているところでございますので、よろしくご協力をお願いして、冒頭にあたりまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>大塚教育総務課長</p>	<p>本日の会議の出席者につきましては、福井市長、教育委員の皆さま、上原教育長のほか、お手元にお配りしております座席表のとおりでございます。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それではここからは、福井市長の進行により、会議を進めていただきます。市長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>福井市長</p>	<p>それでは、次第に基づきまして、進めさせていただきます。本日は、あそこの正面に出ておりますとおり、「つながり響き合う教育」をテーマとして、縦をつなぐ「小中一貫教育」、それから横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」について、協議・意見交換をしてみたいと考えております。</p> <p>昨年度の総合教育会議では、「学校・家庭・地域をつなぐ」をテーマに、奈良市の先進事例を取り上げ、また高島学園の地域学校協働本部の中村コーディネーターにお越しをいただきまして活動</p>

<p>福井市長</p>	<p>実績をお伺いし、この活動をどのように拡げていくのかなど今後の構想について意見交換をしていただいたところでもあります。</p> <p>今年度は6つの中学校区で特色ある小中一貫教育に取り組むとともに、各地域で学校運営協議会、あるいは地域学校協働活動も本格的に本年度からスタートしております。</p> <p>このようにいくつか動きがありましたので、今回はこのように2つの主軸を協議事項とさせていただいて、委員の皆さまと意見交換をしてみたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは事務局の方から、まず1つ目の縦をつなぐ「小中一貫教育」について説明をお願いします。</p>
<p>川島学校教育課長</p>	<p>失礼します。学校教育課の川島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、「つながり響き合う教育」につきまして説明させていただきます。この取組みは、これまでから全市的に取り組んでまいりました縦をつなぐ「小中一貫教育」と今年度から市内すべての小中学校で取組み始めました横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」を推進しまして、「つながり響き合う教育」へと高めていこうとするものであります。</p> <p>それでは、縦をつなぐ「小中一貫教育」につきまして、私の方から説明させていただきます。はじめに、本市の小中一貫教育の概要につきまして説明させていただきます。義務教育の9年間で、「前期」を小1から小4の4年間、「中期」を小5・小6・中1の3年間、「後期」を中2・中3の2年間の3つに区切り、それぞれの発達段階に即した指導を行って、子ども同士、子どもたちと教員、教員同士がつながり響き合いながら、子どもたちが社会で生きる力を育てることを目指して推進しております。</p> <p>右手を見ていただいて、推進にあたりましては、「高島プログラム」と称しまして、「共同研究システム」、「小学校の教科担任制」、「学びの環境づくり」の3つの取組みを柱として実践しています。</p> <p>1つ目の共同研究システムでは、6つの中学校区ごとに、学びと指導の連続性を共有し、全教職員で授業の研究を行っています。この写真は共同研究で授業づくりをしている会議と授業の様子で</p>

川島学校教育課長	<p>す。小中間のつながりが深まるとともに、教職員の指導力の向上につながっています。</p> <p>2つ目は、教科担任制であります。中学校の教科担任制へのなめらかな移行と小中のつながりをねらいとして、算数と外国語を中心に教科担任制を実施しています。この写真は中学校の英語教員やALTが小学生に対しまして授業を行っている様子であります。これらの指導は、子どもたちの学習意欲の向上や、中学校入学に対する不安の軽減につながっています。</p> <p>3つ目は、学びの環境づくりであります。今求められています「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって、ペア・グループ・小集団と段階を踏みまして学習活動を工夫しています。写真は様々な形態でともに学び合う子どもたちの様子です。</p> <p>次に3つの柱に加えまして、今年度から、新学習指導要領の本格実施に向けまして、東京学芸大学との連携協定を結び、外国語教育と道徳教育の推進を図っております。</p> <p>今回、外国語教育の推進に絞りまして説明をさせていただきます。9年間の外国語教育の流れにつきましては、音に敏感な前期で音声に慣れ親しみ音と意味のつながりに気付く。知的好奇心が旺盛な中期で文字との結びつきを発見する。そして、後期で自分の思いを英語で話したり書いたりして発信するという展開で9年間をつなぎます。</p> <p>今年度から 1・2年生は月1時間、3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間、外国語教育を実践しています。さらに、教育研究所の指導主事が小学校を巡回し、一緒に授業をしたり、指導助言をしたりしています。また、東京学芸大学の粕谷教授にご指導いただくことで、小学校教員の指導力が向上しつつあります。</p> <p>それでは、授業の様子を見ていただこうと思います。これは中期の小6の授業の一コマです。この時期は一般的には周囲を気にして、自分の思いを表現しなくなる傾向にあります。そこで話したくなるような身近な話題を取り上げて、話す活動へと展開しています。英語を用いて、自分のあこがれの人を英語で伝えています。このことは音と文字の関連に気付くきっかけとなっています。映像をご覧ください。</p> <p>次に見ていただくのは、後期の中学生が英語でスピーチする様</p>
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

川島学校教育課長	<p>子です。音声を中心にして学びを積み上げてきた後期では、自分の考えを自信をもって英語で発信する姿を目指しています。映像をご覧ください。</p> <p>次は「英語は社会で使えるもの」ということを実感させるため教育委員会が主催する「Takashima English イマージョン デイキャンプ」の様子です。夏季休業期間に希望する市内の小学生を対象に、ALTや市内で活躍されている外国人、留学経験のある大学生などの協力を得まして、英語で触れ合う機会を設定しました。社会の中で、人とつながり、豊かな生き方につなぐ外国語教育を推進していきたいと考えております。映像をご覧ください。</p> <p>次に小中一貫教育の今後の展望といたしまして、これまで取り組んできました「高島プログラム」の取組みを継承し発展させること、さらに新学習指導要領の本格実施に向け、今年度からの2年間、外国語教育と道徳教育の推進に取り組むこと、そのことに加えて、「高島の志の教育」をより一層推し進めるため、今後「小中高をつなぐキャリア教育の推進」、また「小中をつなぐ特別支援教育の推進」にも努めてまいりたいと考えております。</p> <p>最後に、小中一貫教育の課題についてであります。1つ目は、「教職員の意識をさらに向上させること」であります。2つ目は、「小中の枠を越えた縦のつながりを広げること」であります。以上で、縦をつなぐ「小中一貫教育」に関する説明を終わります。ありがとうございました。</p>
福井市長	<p>はい、ありがとうございました。ただいま、市内での小中一貫教育の取組みの経過について、あるいはまた今年度から、東京学芸大学と連携協定を結び、特に力を入れて取り組んでおります小中一貫教育の中の外国語教育について説明をいただいたところであります。いきなりで恐縮ですが、ただいまの説明などについてご意見を賜ればと思いますので、どなたでも結構ですので、ご自由にご発言をいただければと思います。</p>
三矢教育委員	<p>映像を交えた発表で大変よくわかりやすくて良かったです。ありがとうございました。小中一貫教育というのは、小中学校の先生方の協働なくしては始まらないことです。でもそこには、小学校・中学校</p>

<p>三矢教育委員</p>	<p>それぞれの学校に通う児童生徒たちの発達段階はもちろん違いますし、それから45分授業、50分授業という学校形態も違いますし、学校文化の違う中で先生方の意識の差というのは当然のことです。6町村それぞれ環境も違いますし、学校規模、それから地域の実態等々いろんなことが様々な学校状況の中で、すべての子どもたちに、どの地域に住んでいる子どもたちにも、同じような教育を、すべての子どもたちに「たかしまの志の教育」を、というような思いでもって取られたのが小中一貫教育という方法で、中学校ブロックで、今のような活動を展開しているというふうに受け取らせていただきました。いろんな工夫、たかしまプログラムの話とかありましたが、中学生があんなに流暢に英語が話せるって羨ましい、私ももっと中学校の時に勉強しとけばよかったっていうのは思いながら見せていただきました。ああいう姿を目指すということで、日々努力してくださることに感謝いたします。この英語の取組みのことについても、この前全国サミットの中でも研究所の方からご発表いただいて、大変教育委員会のリーダーシップを取って進めていることについても高く評価をいただいたところです。小中一貫教育の昨年度のまとめのアンケート等を拝見しますと、「小学生の子どもたちが中学校へ行くときの不安がなくなった」とか、それから「担任外の先生とか中学校の先生に教えてもらうことについても大変良い」ということで、子どもたちもそういうふうなところで経年変化を見ると、パーセントも上がっておりますし、子どもたちも大変良い取組みだというふうに受け止めているような気がします。何よりもアンケートによりますと、小中学校の先生のところですが、この小中一貫教育の取組みというのは、教職員の資質向上についても効果が期待できると答えておられる先生方が78パーセントから81パーセントになっているというところへんで、大変伸び率もいいし、先生方もこのやり方ってやっぱりいいよねっていうふうにお考えなんだなっていうことは大変手ごたえを感じておられるっていうのは本当に素晴らしい成果だっていうふうに思って拝見していました。ところが、地域はっていうと、そんなに頑張って、私たちもこうして近くにいるのでいろんな機会に学校の取組みっていうのを聞かせてもらったりして素晴らしい教育を展開してくださっているのは分かっているんですけど、意外と学校だよりとか小中一貫だよりを出して、広報にも努めていて</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

くださるんですけども、保護者さんはお分かりかもしれませんが、地域のちょっと子どもがもう離れた私たちぐらいの年代になりますと、案外その素晴らしさは地域に届いてなかったりとか、それから誰もが教育って大事で、学校は大事って思っているはずなんだけど、高島市が目指しているようなその教育、今お話があったようなそういう話とか、子どもたちが実際にどんなふうにして学んでいるのかっていうのを案外ご存じじゃない。広報は行っているんですよ、全部に。回覧も行っているんですけども、ご存じじゃない。そういうのがひとつの実態としてあるかなって。小中一貫っていうと、すごく教育がどんなに変わってどんなになるんやろうっていう言葉だけ聞くと、すごい大きな期待を感じてしまうんですけど、意外と小学校は小学校やし、中学校は中学校やし、なんかでも子どもたちは運動会やらを一緒にやってはるみたいやでとか、この前こんな書いてあったよというようなところはふーっとは聞こえてくるけれども、それが小中一貫ってなんだろうっていうところへんまではいっていない。そういうふうな一般市民の捉え方っていうのはそうかなって。それって広報不足っていったことでは済まされないなんかがあるんじゃないかなっていうふうに感じています。じゃあ同じようにそれだけ縦のつながりを意識して指導することっていいことやねって手ごたえを感じておられる先生方はどうなんだろうかっていうことで、学校現場っていうと、本当に学校が取り巻く状況っていうのは、課題は多種多様でそれぞれの学校、それぞれの課題を抱えてお仕事してくださっています。そこへ今お話がありましたようにICTが入ってくるとか道徳教育が入ってくる、それから外国語の教科化で小学校からやらなくちゃいけないとか、進路指導が入ってくる、キャリア教育はある、それから学校安全はあるしっていうようなことで本当に社会が変化すると同時に学校の課題も同じだけ増えている。そういうふうな状況の中で、先生方が教職員の大量退職であったりとかその大量採用の影響によって、結構年齢構成、経験年数のバランスが崩れている学校現場、その中で忙しいだけに追われているのではないかっていう、それもアンケート結果なんですけども、先生方のアンケートの中で、取組みを進めている先生方ご自身の中で、つながりは大事だと思っているんだけれども意識して授業を行っているとか、それから小中学校区の手引きなんかを意識してやっていこうとなっ

<p>三矢教育委員</p>	<p>ているんだけどそれがなかなかできていないところらへんで、パーセンテージが非常に低いところもあります。先生方ご自身が取組みはすごくいいとは思いつつ、なかなか取組みの目的を見失ってしまっている場合があるのではないかなというふうに思われるところとか、そのために成果とかいろんなものを見取る時にうまく見取ることができなかつたりとかそれから取組みの焦点化が図れないままでやっているのでもいろいろやっているけれども、その部分については達成感がない項目等々もあります。こういうことっていうのは先生方一生懸命やっているんだけど、いつの間にかその目的を見失ってしまったり、そのへんの共有がなかなかできない状況でやっていってしまうと本当にお疲れで何のためにするのかっていうところへんを今一度取組みの意図っていうか、そこらへんをしっかりと共有していかないと多忙感だけに終わっていないだろうかっていうふうに感じます。それでやっぱりいろんなことをするためには何のためにするのかという取組みの意図をできるだけ丁寧に地域、それから学校の先生方と共有していく、そして計画的・組織的に取り組んでいく、そしてその評価を可視化してもう一度フィードバックして返していけるっていうかそういうふうな地道な取組みがやっぱり今一度立ち止まってしていただき、それを地域にも返していただくような、それがみんな子どもを育てていこうっていう、第2部の方の報告にもつながってくるんですけども、やっぱりそこらへんの取組みが地域とともにある学校づくりの核となる学校の役割のような気がいたしますので、またそのへんしっかりとたくさん評価されておりますので、学校だよりももちろん出して、地域にはお配りはしておられますし、学校運営協議会、いろんなところでもご協議はされているんですけども、そのへんの観点で、みんなが教育が見えるような形でどうなんだろうってところへんも含めて、先生方の意識っていうかみんなやっていこうっていうその気持ちが更に高まっていけばいいかなという思いで発言させていただきました。</p>
<p>福井市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。三矢委員の方から小中一貫教育について、いろんな角度から肯定的なご意見をいただきながら、しかしながら現実の問題としてそれが後半の地域とともにある学校づくりの運営協議会とかあるいは協働本部というところにつながって</p>

<p>福井市長</p>	<p>るかなと思うんですけども、もう少し学校でこういう小中一貫だけできなしに様々な多角的な教育活動を展開をされるということをもう少し地域の皆さんにも情報として提供するような機会を増やしていったらどうかというご意見でありますとか、あるいは確かに新しい学習指導要領に基づきますと、毎回のように学校現場の負担増につながるような指導要領が公示をされる。外国語教育であるとか、あるいはこういう情報関連の環境整備、あるいは教育活動、さらには道徳教育の教科とか、一方で教職員の皆さんの働き方改革を、御旗の旗をかざしながら、土日の部活は基本的にはやらないというふうなことを示されたりですね。とは言いながら、こういう新しい課題にも学校現場の教職員の方々は取組まなければならないという責任もございますので、そういう狭間でご苦労いただいて、そういうところをもう少し何かの形で地域の皆さんに、教育活動なりあるいはそういう課題も見えるように何か手立てを講じるべきではないか、そういうご意見だったかなと思いますけれども、三矢委員のご意見、その他でも結構ですけれども、さきほどの小中一貫教育の状況の説明の中でお感じになられたこと、あるいは県内でも高島市は小中一貫を先進的に取組みをしてきているんですけども、そのような中で委員さんの方で今お考えになられることがありましたらこの機会にご意見いただけたらなと思いますけれども。</p>
<p>川原林教育委員</p>	<p>この小中一貫教育については、昔でいうとちょっと言い方が悪いですが小学校・中学校ぶつ切りの教育だったのが、小中一貫で連続する教育になっていくというのは、すごい改革だと思います。実際その小中一貫という教育を見据えていくとやっぱり縦のつながりとして保幼のつながりと、キャリア教育ということを見ると高校までのこういうつながりっていうのが必要になってくるのではないかなというふうに感じました。この保幼に関しては、湖西中学校区の方では、なのはな園とかさくら園では共同研究というかたちで小学校と一緒にされているような活動もされておりますし、私の子どもが新旭北小にいますが、そこでは5・5交流といって、幼稚園の5歳児と、あと小学校の5年生、この5・5の交流、遊んだり給食を食べたりという交流をしております。ですから、幼稚園の子にとっては、5歳違ったお兄ちゃんお姉ちゃんが小学校にいるっていうのはすごい</p>

川原林教育委員	<p>つながりというか、安心感があってそのまますぐ学校につながっていく、慣れていくすごいいい取り組みだなというふうに私は思いますし、これが湖西中学校区だけじゃなくて他の学区においてもですね、そういったつながりが今後必要になってくるんじゃないかなというふうに私は感じました。</p>
福井市長	<p>ありがとうございました。小中あるいは中高、さらには見方を変えると保幼小というそういうつながり、子どもたちにとって保育園・幼稚園から小学校あるいは中学校、さらには高校ということで様々な環境が変わっていく中で、できるだけその環境を、子どもたちにとってプラスな環境に変えていくための連携ということについてご意見をいただきました。ちなみに、保幼小中で湖西中学校で、湖西エリア、旧の新旭ですけども、エリアでやっていただいているということなんですが、ちなみに事務局の方で他の新旭エリア以外でやられているところ、あるいはやられていないところ、やられていないとしたらどういう課題があってやられていないのかということが把握できていたらちょっと発言を事務局の方からお願いしたいのですが。</p>
伊吹教育指導部長	<p>保幼小中の取り組みでございますが、新旭の方は先進的にされているということでございます。早くから朽木中学校区におきましても12年間というスパンの中で取り組みをしていただいているという実績がございます。昨年度からでございますが、マキノ中学校区におかれましてもそういった取り組みを県の方から研究指定を受けましたので、その関連の中で取り組みをしていただいているというところでございます。他の中学校につきましては、そういった中学校区の実績を見ながら、その取り組みについても模索しているという現状でございます。</p>
福井市長	<p>お聞きしていると、湖西中学校でだけでなしに朽木ではもうすでに12年前から実施をされている、あるいは昨年度からマキノエリアでも試験的にと言いますか、先進的にその取り組みをされているということですけども、考えてみたら別に先進事例が市内にあるわけですから、そういうところの評価を検証してもらって教育委員会と子ども未来の方と連携してもらって、それであれば、同じ高島市内</p>

福井市長	<p>の子どもたちですから、例えば今津あるいは安曇川あるいは高島、高島にとってはもう学園というかたちでまとまりのある小中をやられていますから、そういうところもぜひとも市役所の中で意見を交換してもらって、そして先進事例の成果もあるわけでしょうからそういうことをお互いやはり情報を共有するっていう機会をぜひとも持っていたいただければなと思いますので、またそのあたりはよろしくお願いいたします。他に何かございませんか。</p>
小多教育委員	<p>今の話の中で小中のつながりで小中一貫教育の課題の中の2番目で、小中の枠を超えた縦のつながりというようなことがあるんですが、今の現代社会を見てると保護者側から考えたら学童がほとんど利用されているというようなこともありますし、やはり学童からのつながり、幼保から小学校へのつながりということを考えると、幼保小中15歳までの育ちというのか、そういうようなことを前提に今市長さんの方から話がありましたように、全市に向けての15歳までの育ちのつながりを前提に進めていくのが必要なのかなというふうに考えています。ぜひともお願いいたします。</p>
福井市長	<p>はい、ありがとうございます。ちょっと今のご意見で学童からのつながりというのは、幼保小中というそういうつながりのことでしょうか。</p>
小多教育委員	<p>そうですね。かなり学童の方も市としても支援というのか、バックアップしていますし。</p>
福井市長	<p>学童保育のね。そうですね、今、学童保育はかなりな子どもたちが利用していますけど、全体のだいたい何パーセントぐらいが学童保育へ行っているか。</p>
饗庭子ども未来部長	<p>何パーセントかはわからないんですけども、だいたい学童保育利用者は470名あまりです。</p>
福井市長	<p>そうすると、小学校でだいたい平均すると、数が少なくなってきました400人として、6学年で2千数百名。2千数百名のうち、約50</p>

<p>福井市長</p>	<p>0名。こういう計算かな。だいたい20パーセントから25パーセントぐらいの子どもたちが学童保育を利用しているということで、そういうことからしますと、幼保小中のつながりを、少し学童保育と切り離す必要があるかと思うんですけども、ぜひともさきほど川原林委員がおっしゃったその幼保と小中のつながりを難しいテーマではないと思いますので、しかも市内にはそういう先進事例もありますので、ぜひともそこはちょっと教育委員会と市の子ども未来の方で議論をしていただいて、あるべき姿を一度また委員の皆さんと意見交換させていただけたらと思います。ちょっと時間の関係がありますので、また後ほど次のところでご意見を賜りたいなと思います。私の方から恐縮ですけども、小中一貫教育の今後の展望というところ、先ほど課長が説明してくれたその中で、さっきのページ出ますかね？私が質問するのはおかしいかなと思うんですけども、この機会に。11ページかな。ここでね、(4)で小中高をつなぐキャリア教育の推進っていうのは具体的にどういう、例えばこういうものを目指すというか。</p>
<p>川島学校教育課長</p>	<p>失礼します。今、小中の方では将来先の見えない未来を生きていく子どもたちを育てる我々ですので、小中で一貫したキャリア教育というのは見通しを持ちながらやっているのですが、高校とのつながりに弱さがあるということでございまして、昨年度まで中学校の校長と高校の校長が集まりまして、キャリア教育の話に、進路指導も含めまして話をしていたんですけども。それぞれ小中高のキャリア教育の担当者同士が集まってそれぞれが取り組んでいるキャリア教育について、ひとつつながりのあるものを作り上げて、高島市の将来を担う子どもたちの成長に、小学校では何ができるのか、中学校では何ができるのか、高校では何ができるのかと。それぞれ特色ある取組みを進めている現実はあるわけですが、つながりのところで理解が弱いというところがございましたので、今それぞれ小中高の担当者が集まりまして、見通しを持って小中高の先生方に提示できるモデルと申しますか、今、図を作っている最中があります。そろそろ出来上がりますので、それを来年度から小中高の先生方に広めて、それぞれ意識をしていただいて小学校では高校を卒業する時にこんな姿の子どもを作るために、小学校ではここを</p>

川島学校教育課長	<p>するんだというようなつながりを今後深めていこうということでこの推進に挙げさせていただきました。</p>
福井市長	<p>はい、ありがとうございます。最近気になりますのは、先日の新聞でも今年の高校入試の募集の状況がニュースで報道されておりました。高島高校、あるいは安曇川高校、特に安曇川高校のその時の倍率が0.5あるいは0.6というふうなことでありますし、高島も1を割り込んでいるという、これはまだ最終段階の数字ではないようなんですけれども。そういう中で、実際子どもたちが学校を選ぶそういうもちろん権利と言いますか、選択の自由があるわけですが、ただ地域から見ますと、幸い5万人弱の自治体で県立の高校が2校あるというのはなかなか環境に、今教育環境にも市としては恵まれている環境であると。ところが、市外、あるいは場合によっては県外の高校を進路で選択されるということが毎年のように率が上昇傾向にあるということも、いろんな課題、いろんな背景があると思いますけども、決して無理やり地元につなぎ止めるということではないんですけども、一方で特色ある高島の教育を広くアピールしていくひとつの方法として、この小中高をつなぐキャリア教育というのは重要なポイントになるかなと思いますので、ぜひとも積極的に展開をしていただければなというふうに思います。</p> <p>それでは、2つ目のテーマであります。横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」ということで学校運営協議会なり、あるいは地域学校協働本部、これは先ほど冒頭で申し上げましたように、今年度から市内ではこうした地域との協働による教育という環境づくりに取り組んでいただいておりますので、まずは今の現状あるいは課題等があればこの機会に説明をお願いします。</p>
北村教育総務部次長	<p>教育総務部次長の北村と申します。私の方からは、横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」学校運営協議会・地域学校協働本部につきましてご説明させていただきます。</p> <p>これが学校運営協議会と地域学校協働本部のイメージ図です。右の赤の囲みが学校運営協議会、左の緑の囲みが地域学校協働本部でございます。地域とともにある学校づくりを、学校運営協議会と地域学校協働本部が車の両輪として推進をしていきま</p>

す。

それでは、学校運営協議会につきましてご説明をさせていただきます。今年度、市内の全小中学校で立ち上げた学校運営協議会は、保護者や地域の方々が、学校の様々な課題解決に積極的に参画し、地域の学校として、当事者意識をもって、子どもの成長を支えていこうとする仕組みです。学校運営協議会の役割には、主に3つございまして、1つ目が「学校運営の基本方針の承認」、2つ目といたしまして「学校運営・教育活動について意見を言うこと」、そして3つ目が「学校運営への必要な支援に関する協議」でございます。各学校の協議会におきまして、学校を核として地域で子どもを育てるビジョンと、具体的な取組みについて熟議を重ねていただいております。

その一例といたしまして今津東小学校の学校運営協議会の取組みをご紹介します。今津東小学校学校運営協議会のメンバーは、社会教育委員や主任児童委員、少年補導委員、保護者の方などです。ここに、地域コーディネーターや学校関係者が加わり、これまでに4回の協議会を行ってきました。会ごとにテーマを変え、いろいろな立場から意見を出し合い、そして、解決のために、どのような取組みが有効かというところまで、学校の当事者として話し合いを行っております。第2回協議会では「学校・地域の課題について」、第3回協議会では「今津でどのような子を育てたいか」、第4回協議会では「子どもたちにふるさと意識をもたせるには」をテーマに熟議が行われました。

第4回協議会で出された意見を一部ご紹介します。「どんどや祭のいわれなどを学ぶことで、興味や関心が高まる。ただ、そういうことを大人が知らないし、地域のよさも知らないことが多い。」「そういうことを知ったりするためにも、地域の高齢者や区長さんを学校に招待したり、逆に協議会メンバーやボランティアメンバーが出向いて、地域の方にいろいろな話を聞くことも有効だろう。」などといった意見が出されました。

熟議を重ねることで、さまざまな課題が顕在化してきたこと、その課題の解消に向けて、これからどのようなことが大切かなど考えることができました。各校の協議会におきまして、地域の方の声を学校教育の中に取り入れるべく取組みが進んでおりますが、学校運

営協議会が出てきたいろいろな意見や要望を次へにつなぐのが、地域コーディネーターの役割になります。地域コーディネーターは学校運営協議会に参画し、学校や協議会からのニーズを把握します。そして、地域学校協働本部で、学校からのニーズを紹介し、活動を企画し、幅広い地域住民や団体等の参画を得るための連絡や調整を行います。それを受けて、幅広い地域住民の方々が、できるときにできる活動に参画していくということになります。

今年度からスタートしたこの活動ですが、青い矢印のような流れの学校支援活動が生まれてきています。ここからは、具体的な地域学校協働活動についてご紹介をさせていただきます。これは、家庭科の授業で、ミシンの使い方の指導に来てくださったところです。担任の先生だけでは手が届かない、きめ細やかな実技指導を地域の方々に担っていただきました。できた喜びで子どもたちの学習意欲が更に高まり、頑張ったことを認めてもらえ、ほめてもらえます。家庭科や図画工作科など、専門的な技能を要する活動において、地域の方々の専門性が活かされました。これは、小学校で行われた「昔遊び」の講師として地域の方が来てくださった場面です。子どもたちは、コマ回しやお手玉などの昔の遊びを教えてもらい楽しみました。図書室の整理活動の様子です。何日もかけて図書室の本を整理していただき、子どもたちが図書室で活動しやすくなりました。花壇整備活動の様子です。呼びかけに応じてご自分の得意なこと、好きなこと、力を活かせるようなことを、できるときにできる範囲でご支援をいただくということで、持続可能な活動になっていくのではないかと考えております。地域の方々が、生徒会のメンバーと一緒にあいさつ運動に取り組んでくださっています。元気な声で迎えられた子どもたちは、だんだん元気にあいさつが返せるようになり、気持ちよく朝のスタートが切れています。学校生活全体にも落ち着きが見られるようになりました。これは、中学校の定期テスト前の放課後の補充学習に、地域の教員のOBの方々が来てくださったところです。朝にも補充学習が行われ、多くの生徒がお世話になりました。これらの活動に参加してくださった方からは、「子どもたちと関わる機会が持ててうれしい」ですとか、「学校との距離が近くなった」、「子どもたちには地域に関心を持ち、地域の歴史や伝承を伝えられる大人になってほしい」といったご意見をいただいております。

<p>北村教育総務部次長</p>	<p>ます。動き出したばかりの活動であり、参画してくださっている人数や行われている活動は、学校によりまちまちです。ただそれぞれの学校のニーズに応じた活動が行われており、まずこういった活動が定着していくことが望ましいと考えております。</p> <p>今年度はこれまでに紹介したような、地域の方による学校支援活動が中心となっておりますが、目指すところは、地域の方々による支援活動と、子どもたちが地域で活躍する双方向の活動が行われ、学校と地域が連携協働していくことです。つまり、学校からのニーズを受け、地域の方が学校の支援を行う青の矢印の動きと、地域からのニーズを受け、子どもたちが地域で活躍する赤い矢印の動き、この双方向の流れを生み出していきたいと考えております。</p> <p>少しずつですが、地域での活動が創出され、活躍する生徒が出てきました。地域のイベントにボランティアとして参画し、地域の大人と一緒にイベントを支える活動をしてくれたり、地域の方々に、部活動など日頃の練習の成果を披露してくれたりしています。子どもたちからは「感謝の声を聞き、役に立っているという実感が湧いた」「地域の方と交流しながら、自分たちの持ち場の仕事がしっかりできてよかった」という感想が聞かれました。地域の敬老の日事業として行われた高齢者宅訪問では、お菓子を届け、話をすることができました。朽木西学区の施設に、雪囲いを設置する活動に参加した中学生もいます。大変な作業で苦勞もしましたが、地域の役に立っていることを実感できたこと、昔からの文化を再確認できたことなど充実した活動になりました。</p> <p>こちらは今年度学校と地域のつなぎ役地域コーディネーターとして活躍してくださっている皆さんです。今後学校運営協議会と地域学校協働活動が定着し、地域と学校との双方向の連携協働がさらに進められるように教育委員会といたしましても地域コーディネーターの皆さんとしっかり連携していきたいと考えております。</p> <p>最後に、現状の活動における課題を3点挙げさせていただきます。1点目は、協力してくれる人が限定されており、支援の輪が広がっていかないということです。かかり人口をどう増やしていくかが課題であると考えております。2点目は、各地域の実情に応じて、その地域にふさわしい組織づくりや活動を行っておりますが、その反面、地域によって進み具合に差があるということです。そして3</p>
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

北村教育総務部次長	<p>点目ですが、先ほど申し上げました赤の矢印である、子どもの地域活動への参画が進んでいないということです。以上で私からの説明を終わります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
福井市長	<p>はい、ありがとうございます。本年度から高島市の教育委員会では、この学校運営協議会あるいは地域学校協働本部の立ち上げをしてスタートを切ったところでもあります。その中で最後の課題も協力していただく方が限定しているとか、あるいは地域差があるとか、あるいは逆に子どもたちから地域活動への参画がなかなか進まないというような課題も説明をいただいたわけですし、また一方さきほどの小中一貫の中で三矢委員の方からは学校現場で子どもたちのそうした様々な学習のそういう状況が保護者はもとより一般の方にそういう情報が伝わっていないのではないかというようなこと、それを地域の皆さんに伝えることによって、子どもたちの教育現場に関心を持っていただき、そしてこういう今のテーマであります地域と学校が協働するという体制を作っていくために、やはりそういう取り組みも必要ではないかというそういうご意見もいただいたところであります。それではまずは今説明のありました内容について、ご意見等ございましたらお願いをします。</p>
田邊教育委員	<p>今ここに課題というかたちで何点か挙がっているんですけども、さきほどずっと説明していただいた中にもあったかと思うんですけども、両輪というかたちで今から進めていこうという取り組みなんですけれども、昨年もフォーラムとか行われて参加させていただいたときに、先生がたびたび会議の時にも出るんですけども、校長先生が替わられたときにまた今まで積み重なってきていたものがまた一からになってはだめだということとか、それに同じようなことが言えると思うことは、今現在一生懸命こういった取り組みをしていただいている一生懸命やっているわけなんですけれども、今現在の子どもたち、それゆえに関わってくる保護者の皆さんであったり、PTAの方々が一生懸命取り組んでこられていることは今在学している子どもたちが卒業するとともにそういうようなことが薄れないような仕組みで進めていくべきではないかなというふうに考えているんです。今説明していただいた中に、地域のコーディネーターの方の存</p>

在というのはすごく大きくて、先日広報とかでも紹介していただいて、それを見て、周りの方に今高島市で一生懸命こういうふうに取り組んでいるんですけども、こういうことってご存知ですかってちょっと聞いたことがあります。なら学校に今現在在学している保護者の方っていうのはまあだいたいよくご存知なんですけれども、もう卒業してしまった保護者の方とか地域の方っていうのはこういう取り組みをしていることすら知らない。以前は、こういう言い方をしては失礼なんですけれども、学校っていうのは意外と閉鎖的なところがあって、いろんな時代の流れもあるんですけども、学校は下手に近寄ったりしたら誰か不審者が近くに来ているんじゃないかとかそういうふうに思われるのもやはり嫌で、なるべく思われないように学校に近づかないようにしていた部分というのが今の年輩の方にはそういう考えを持っておられる方がいらっしゃらないというわけではないんです。実際そういうふうに来てきたっていうか、そういうことを経験してきたので今さら学校にって言われてもなかなか足は向かないという方もいらっしゃる反面、高齢化社会になってきて周りにおられる元気なお年寄りがたくさんおられて、その方たちっていうのは今まではそう思っていなかったんだけれども、家を出て自分が散歩しているときに、子どもたちが登校してくる時間帯に散歩をしていて、最初は子どもたちの方もいつも散歩しているおっちゃんやなっていうふうに見られてたのが回数を重ねるごとに、お帰りって言ったらただいまって声をかけてくれるようになった。そうなってくると今度はそういう一生懸命頑張って学校から帰ってきて、元気に帰ってくる姿、あの子はあそこらへんに住んでいる子やなってわかってきて、子どもたちの警戒心っていうのも少なくなってきて、そうなったときに、いや僕たちは勝手にぶらぶらしているけれど、元気やしまだ何かできることがあるんやったら協力もしたいと、子どもたちと一緒に交わってほしい、けどそういう気持ちというのはどういうふうに言ったらいいのかわからへんと言わはるのが意外に多いというのを今回感じました。一生懸命コーディネーターの方が今回こうして広報に載せていただいたのをすごくありがたいなと思って、こんなにたくさんの方がしていらっしゃるんやっていう反面、この人たちすごく大変やろうなと。もっともっと地域の人にここの地域のコーディネーターの方がいらっしゃるんやから、もし何か学校に要望があったりこ

<p>田邊教育委員</p>	<p>んなことを手伝いたいというのがあったら投げっていくよということをもっとアピールしていただきたいし、今度は逆に地域の方が地域の行事が少なくなったことは残念なんですけれども、それでも小さい集落のところである行事とかにも子どもたち来てよねってその地域関係なくこういうことするから子どもたちに参加してほしいんやっていうのもやっぱりコーディネーターの方を通じたりしてもっと学校にもアピールしていったら、だいぶ進んでいくんじゃないかなと。今のままで地域の一部の人しかこういう仕組み、取組を知っていただいているというのはすごく残念じゃないかなと。活動してくれる人がまだまだいっぱいいるし、子どもたちもそういう中に入ってってくれるということで、高島市のこれから先のいろんなことにつながっていくんじゃないかなということを、今こういうふうに説明していただいた中で、また去年から取組みさせていただいている中ですが、すごく感じていることは今言わせていただいた中に入っているかなと思うんですけれども、もっともっとこういう取組みっていうことをPRしていただきたいというのが私の思いです。</p>
<p>福井市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。今田邊委員の方から各般にわたっていろいろご意見をいただきましたけれども、課題の中で支援の輪が広がっていないとかそういう課題がありましたけれども、今ひとつのヒントを示していただいたかなと思っています。例えば、教職員の方々、校長先生を含めて、一般的に人事の異動が、替わると学校の顔と言いますかね、替わられるとまた信頼関係を築くのがまた一からなってしまう。そんな中で卒業した子どもたちに関わりを持たしてはどうかっていうのは、これは大きなヒントかなと思いながら聞かしていただいていた。一から子どもたちの参加を促していく、あるいはつないでいく、逆に言うと我々教育サイドからある意味押しつけではないですけれども、形を整えて体制のイメージを作り上げて声かけをして作り上げる。子どもたちがその中に入って、地元の方々との連携をしていくということもそれがキャリアを積んだと言いますか、卒業した子どもたちが中学生になったりとか、あるいは高校生になったりとかそういう子どもたちが自分たちの経験を活かしながら地域の方々に声かけていくのかな、連携といいますかね、そういうものを作り上げるということをする、上からの押しつけのこう</p>

<p>福井市長</p>	<p>いう、教育委員会なりあるいは協働本部ではなしに、まさに自分たちにとってどうなんだろうねっていうふうなことになるきっかけをつくるという、極めて貴重なヒントをいただいたかなと思いながら聞かせてもらっていました。なぜかという、毎年学力テストがあります。これは年によっていろんなその評価があるわけですがけれども、ずっと毎年見てる中で、高島の子どもたちのひとつの特徴は自治会活動に参加をしているそういう子どもたちが、全国の子どもたちと比較すると高い数字で推移をしているということもひとつの、例の学力調査の調査項目の中の一つが伺えるんですけども、そういう環境が整っている。しかしながらそれでもまだ子どもたちがなかなか地域活動に参加が進んでいないという課題があるとすれば、もう少しそここのところがある意味深掘りをできる部分があるのかなと思いながら聞かせていただいていたいました。他にご意見ありましたら。</p>
<p>小多教育委員</p>	<p>(1)、(2)、(3)の課題の中なんですけども、昨年からこの地域学校協働活動を始めてまるまる一年も経たずという事なんですけど、その場の中でコーディネーターも各区それぞれやっていたているような状況で、極端なことを言いますとまだ1年目なんです。これからのスタートという土台があってできてくるのかなというふうに思いますので、いわゆるこの課題としての支援の輪が広がっていないとか、地域の進み具合に地域によって差があるというのは、当然の成り行きではないのかなというふうに思います。ただ心配するのは、やはりコーディネーターが6地区現状1人で主体となって進めていくということなんですけれども、例えば地域への参画をもっと広めるという意味から考えたら、現状あるかないかわかりませんが、各地区・地域での生涯学習の委員さんとか人権学習の委員さんとかそういうような、兼ねてもらってもいいんですが、そういう位置づけを、各小集落での位置づけも必要なんじゃないかなと。その中から今回の6人それぞれのコーディネーターさんへの意見交換というか、地域から上がってくる、小集落から上がってくるのも情報のひとつになってくるのかなというふうに思いますので。それもひとつということですし、毎年、年度当初に各地域において区長さんへの説明会というかそういう情報共有の場というのがありますよね。そういう場での現状の取組み、状況はこうですよということでの、その場で</p>

<p>小多教育委員</p>	<p>の協力をお願いするというような取組みも必要なんじゃないかなと、          という中でやはり地域から学校、いわゆる今現状こういう取組みを          しているというのを理解していただいて、偏りのないみんなが誰もが          出られる、出ていけるっていうような体制・環境を作っていくのもひ          とつの方法かなというふうに思います。突拍子のない話かもしれま          せんけれど、市民が参加していただいたらボランティアポイントとか          をつけたりして参加意欲を高めるとかね、そういったこともひとつの          方法かなというふうに思います。課題というのを見たときに、やはり          学校サイドでも無理ですし、コーディネーターさんだけに頼っても誰          もができることではないかなと思います。やはり地域みんなが学校          の方へ目を向けて前へ進もうとするようなかたちにしていこうと、も          っと身近にしようと思うとやはり本当に地元の根っこの意見という          のをまとめられる意思・意見を挙げられるというルートを進めていく          必要があるかなというふうに思いますので、そのへんを検討してい          ただけるとありがたいと。</p>
<p>福井市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。まだ1年、小多委員がおっしゃる通          り、まだ今年度から取組みを始めたところでありますし、県内の各          市町の教育現場から比較しますと、かなり高島が先進的な取組み          をしているということもあります。県外奈良市あたりの先進的な事          例も聞かしていただきながら、まずはスタートしようということで今年          度からきていますので、その中で課題はあって当たり前であります          けれども、しかしながら、今のご意見はコーディネーター6人の方の          負担が大きすぎるのではないかと、そこの仕組みを考えるべきでは          ないかというご意見であったかなと。事務局の方でこのコーディネ          ーターは1人でなければならないという根拠はなんかあるんですか。          別に複数でも大丈夫なんでしょうか。</p>
<p>北村教育総務部次長</p>	<p>はい。コーディネーターにつきましては、1人でなければならない          という根拠はございません。地区によって複数のコーディネーターを          置いている地区もございます。高島市におきましては、中学校区で          ひとつの取組みということで、当座1人のコーディネーターさんにお          願いしているというところでございます。</p>

福井市長	<p>わかりました。それから、毎年4月の年初め、年度替わり、新年度には、各地区ごと、6地域ごとに区長自治会長会議を開催をさせていただいておりますけれども、ここでの協力要請をというご意見でありましたけれども、これはすでに平成30年度の区長自治会長会議の協力と言いますか、こういうことをやるのでぜひとも自治会としても関心を持っていただいて協力をいただきたいということは、説明もさせていただいているんですが、ただ繰り返しですが平成30年は初めてスタートする年でもありましたので、またいささか漠然とした手探り状態の部分がありましたけれども、平成31年度以降も毎回区長さんは毎年だいたい替わられますので、毎年そこは協力のお願いをしないとと思います。</p> <p>それからちょっと忘れないうちに、11ページを出してもらえますかね。看板をご覧くださいと、これは湖西中学校の合い言葉「はっきり、やさしく、元気に」ということで、この市民の皆さんが子どもたちに朝のあいさつ運動をさせていただいている、そういう写真でありますけれども。市の職員さんには耳の痛い話をしますけれども、この関係者の方が私のところにある時お見えになりまして「市長さん、毎朝こうして中学校の前で子どもたちに挨拶運動をやらしていただいているんやけれども、横を通る市役所の職員さんはまず10人いたら、こちらが挨拶しても返してくれる人は1人か2人。」今日は総務部長が同席していますので、やっぱりそれは子どもたちにも良くないし、申し訳ないと謝罪していたんですけど、ちょっとちゃんと言っときますと言いながら忘れていましたのでこの機会に言うときますけど、やっぱりこうしてボランティアで一生懸命子どもたちに朝の挨拶運動を指導していただいているのに、横を通る市役所の職員が挨拶をしてもうつむいて黙って素通りしてしまうっていうのはこれはもう子どもの教育にも良くないので、部長そこは厳しく徹底をしていただくように。</p>
岩松総務部長	機会あるごとに言っておきます。
福井市長	またお願いします。ちょっと余談でしたけれど忘れないうちにも思いました。はい、そしたら教育長、何か発言を。

<p>上原教育長</p>	<p>初めて発言をさせていただくんですけども、2つのテーマで今日いろいろと課題が出ましたけれども、まず小中一貫教育の課題については多分に私に課せられた課題というふうに、さきほどから委員の皆さんの意見をお伺いしながら、その中でひとつ、子どもたちのアンケートの中に「算数の授業で担任以外の先生や中学校の先生に教えてもらうことは良いことだと思う」ということが、平成29年のアンケートで88.6パーセントでございました。1年前の平成28年度が82.3パーセントですから、ちょっと定着してきているのかなということからすると、本市がやっている6年生を中心とした算数の教科担任制は子どもたちの理解に上手く適合できているのかなというふうにアンケートの中で考えています。もう1点、教職員の、さきほど三矢委員の話にありましたが、アンケートの中で「小学生の中学校生活に対する心配や不安を減らすことに効果があったか」ということで「とてもそう思う」「そう思う」が足して95.8パーセントですので、子どもたちにそういう小中の子どもたちの接続については効果があるというようなことが出ていましたが、それ以外の学習の面とかに若干の先生の意識がまだ低いというところがございました。今後ということもございますので、さきほど市長の方からもございました新学習指導要領が2020年小学校、2021年中学校で始まりますので、これをひとつの絶好の機会というふうに考えて、今後学力の方に小中一貫教育の方も力を入れていきたいというふうに思っています。なお、本年から東京学芸大学に職員を派遣したり講師さんで大学の先生に来てもらったりしているのですが、実は付属の小中学校の先生に来ていただいて授業を見ていただいてコメントをいただいているのが、非常に本市の教職員にとっては新しい空気が入ってなんか新鮮さを感じるような印象があるようですので、引き続き、小学校中学校の授業に新しい空気を取り入れていきたいというふうに思って、引き続き、小中一貫教育を進めたいというふうに思っています。もう1点、後半の地域とともにある学校づくり、昨年4月から始まったところなのですが、キーワードはやはり地域で人を育て人が地域をつくるということだろうと私は考えています。そんな中でやはり生涯学習・社会教育にも力を入れて、学校ともうひとつが社会教育、これがさらに大きな両輪かなというふうに思っていますし、どこの地域にとっても持続可能なシステムに定着し</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

上原教育長	<p>ていかないと校長が替わったらすべて変わってしまうのではなくて、校長が替わってもその学校は地域の学校だというような体制に引き続きしていきたいなど。高島市の地域の方々がかかわり人口として学校に非常にたくさん関わっていただいているような体制づくりを進めたいと思っています。1点だけ、子どもたちが地域活動へということで、実は秋田県大館市が子どもハローワークという事業をしています。地域の方々がこんな事業に子どもに来てほしいなのを、学校に紙で貼るんです、来てくれる人はいんかと。で、子どもたちは手挙げ方式でそれやったら行きたいというようなかたちでの、こういうやり方も今後必要かな、大事なかなというふうに今考えているところです。いろいろ課題あるいは実態と課題とお話いただいて教育長として今後こんなことを考えているというお話をさせていただきました。</p>
福井市長	<p>はい、ありがとうございます。総括をしていただきましたので、時間もまいっておりますけれども、これだけは話をしたいということがありましたらお願いいたします。</p>
三矢教育委員	<p>総括も教育長がしたあとでとても申し訳ございませんが、いつも関わらせていただいているという立場でひとつ報告させてください。さきほどからも出ておりますようにコーディネーターさんの仕事っていうのは、本当にたくさんお仕事をしてくださっていてありがたい存在だと思います。学校支援っていうのは、この仕組みがなくても本当に高島っていうのは地域の学校というか、地域の方々に関わってきて、私もいろんなかたちで学校支援というかたちでは入らせていただいていたところ、ところが、ここ1・2年、コーディネーターさんが入った学校支援っていうのはどう違うのかというと、今まで支援に入らせてもらってもその授業が終わったり活動が終わったりすると、ご苦労様でしたとか言われて、ありがとうございましたってお礼は言ってもらえるんですけど本当にそれで終わりだったんですね。たまにはお手紙が来たりということもありましたけれども、それ以上のことはありません。ところが、コーディネーターさんが入ってくださって学校支援に出かけるとどう違うのかというと、コーディネーターさんからさきほど言いましたけど広報ではできていないところ、学校がどん</p>

な思いでそれをしたくて探しておられるのかっていうのは、コーディネーターさんが学校の思いをボランティアさんに伝えてくださいます。ボランティアも忙しいんですけど、仕方がないとそんなに困ってはるんなら行こうかという感じで寄せてもらいます。そこで活動が終わってそこでは帰るんですけども、その後こんなんやったわという感想をコーディネーターさんに伝えておくと、コーディネーターさんは学校へお伝えになります。そうするとまた学校の反応を私たちに学校はこんなんして言うてくれはったわというようなことが伝わってきます。コーディネーターさんが真ん中に入ることによって、ボランティアと学校とを本当に心もつないでくださるっていうか、そういう大きな効果があると思います。その分大変なんですよ、だから依頼文を持って行ったりとか、その時にまた喋って学校の思いを喋ったりとかしてコーディネーターさんから伝えたりとそういうお仕事もしてくださっている。そういうところがやっぱり違うかなって思いますね。それとなかなか広がっていかないところもそうなんですけれど、今1対1、個人が学校へ寄せていただく支援が大変多いんですけども社会教育団体の学区民であったりとか日赤さんであったりとかのそういう団体活動、社会教育機関がいろいろたくさんあるんですよ。スポーツ推進委員さんの会とかいろいろある。そういうところと活動をつなぐ、直に学校につながなくても公民館活動の中とか青少年育成団体とかそういうところの行事をスポーツ推進委員さんが入ってくださってその活動が良かったよと、またスポーツ推進委員さんと学校へつないでいただく、直につながっていかなくてもいろんなところでもややと活動があり、それがまた学校へつながっていくというか、そういうふうなぼやっとしていてアメンバーみたいなんですけれど、しっかりとそのピラミッドを描いてこういう活動っていうのではないんですけども、いろんなところをつないでつないで、茶道体験も学校であったんですけども、うちの文化クラブではもう活動を休止されていたんですけども、学校がこんなことしたいと思ってはって校外学習もなくなったので、日本の文化をどうしてもやりたいと言うてはるのでと、一生懸命頼んでくれはるともう解散したその茶道クラブの方たちがもう一回メンバーを集めて、じゃお茶をたてるのをしてくださったりと、この機会に面白いことやしゃっぱりもったいないことやったしやろうかって、それがまた復活しているっていうのを聞いております

し、いろんなかたちで今まである社会教育団体さんのいろんな目的もいろんなことで高年齢化が進んだりとかメンバーが少なくなったりとかして本当に弱体化しているところを再構築して行って、それぞれの日赤さんの目的とかいろんなものにもったもので、それぞれのところの自分たちの協議会であり会議の強化にもつながるし、見直しにも再構築にもしていただけるっていうか。そんなかたちで個人と学校とがそういうかたちだけではなくて、広く団体、いろいろな社会教育団体がもう一度再構築されていく、もう一度自分たちの活動を見直していく、拡げていくっていうそういうふうな、要はネットワークですので、つないでいく、そのネットワークづくりをしていってくださるのは推進員さんというふうに理解しております。だからいろんなところで、いろんな団体さんとお話をつないでくださっていて、それがフィードバックしてくるってというのは本当に大きな、私たち市民、活動する者にとっては大きく感じて、相手がどう思っているのか伝えてもらうとまた行こうかってなるし、忙しいけどやっぱり明日も行こうかと、子どもたちの元気な顔を見たら聞くぐらいやったら聞きに行こうかと、そういうことがコーディネーターさんがいることによって広がっていきっていうか。非常に大きな力を果たしていただけるので、数は地域差もありますし、面積的にもそれを今1人でかけ持って、かけ巡ってくださっていますので、そういうところも配慮していかないと、倒れてもらったらこの活動はなかなか上手くいかないのが大事にしていきたいなっていう思いがあります。そういうかたちで1対1とかね、個人でっていうのではなくて社会教育関係全部をもう1回見直す良い機会かなというふうに思います。そういう1・2年で高島地域で青少年育成会議の活動にしても今までそんなに申し込みが殺到するってことは本当になかったんですけどね、1・2年子どもの宿をしたらAKBとか嵐さんのコンサートのチケットじゃないんですけど、開館前から長蛇ではないですけど列ができて、すぐ瞬間30人はパッと埋まってしまうとか、そんな状況で。お菓子作りについても去年は定員オーバーしてそんなんすることはなかったんですけど、今回1・2日で定員がピシャッと埋まってしまう。あんまり可哀そうやし、6年生にとっては最後、今年は台風で子どもの宿も出来なかったということもあるので、やっぱり2日間講師の先生にもお願いして複数回分けて開催しようかってことになって。私たちも1日で

<p>三矢教育委員</p>	<p>終わると思っていたものが、2回行かないといけないことになるんですけど、それで子どもたちが喜んでやったらいいかっていうような思いで活動しています。そんなふうにも子どもたちも地域とのかかわりを求めている。全体にそういう思いっていうか、子どもの思いも親の思いも地域への期待、学校への期待っていうのが大きくなっているかなっていうのは本当に肌で感じております。そんな中でコーディネーターさんはもちろんのこと、教育委員会だけでは抱えきれない課題がいっぱいありますので、いろんな市長部局のそれぞれの課の皆さんと一緒に地域の子どもをみんなで育てる、みんなでそのいろんな団体を支えていく、みんなでやっていくというそこらへんを大事にやって展開出来たらいいなと思っていますので、今後ますます学校運営協議会、それから協働本部の活動が両輪となってみんなでやっていけるそんな体制になるようにいろんなところでチェックをかけながら検討しみんなでやっていけたらいいなと思っていますのでまたよろしく願いいたします。</p>
<p>福井市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。三矢委員からは期待を込めた熱いお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。そしたら時間もきておりますのでこのあたりで締めたいと思いますけれども。</p> <p>実は昨日午前中、市内の市民の方で高島市の図書館を考える会というグループを作られていまして、子どもたちの読み聞かせとかそういう活動を地域なりあるいは学校で活動されている方が10数名いらっしゃいまして、市長と懇談の場を持ちたいということで、だいたい案件は分かっています、現在市内には図書館が図書室も含めて旧町村で6つあります。その施設の建て替えあるいは改修ということが将来的に多額の財政負担を伴うということで、ひとつの方針として中核的な図書館である今津・安曇川に統合をしていく方向を示させていただいています。これは具体的にいつどうこうするということではないんですが。市長は図書館の有用性なり、あるいは子どもたちにとって図書館の大切なことをどう考えているのかっていうそういうことの懇談でしたけれども、優しい口ぶりで厳しい言葉をおっしゃっていましたが、少し誤解があったようで、決して全て2つにしてしまうというわけではなしに、今は図書室は公民館の間借りをしているところもあります。そういうところの建物の延</p>

福井市長	<p>べ床面積を減らしていかないと大変な将来の更新なり改修の費用がかかるということで一定それをできるだけ中核的な図書館に統合していこうということだったんですけれども、決して公民館にある図書室を追い出すということではないんですけれども、そこはちょっと誤解が一部あったようで、一安心したみたいなことも最後おっしゃっていただいたんですけれども。そこで皆さんおっしゃったのは、なぜ図書に対してこれだけ熱心に言われるのかなと思いながらずっと聞かせてもらったら、やっぱり子どもたちのためでした。おっしゃっている参加者が10数名、やったかな。</p>
玉木図書館長	<p>14名です。</p>
福井市長	<p>14名か。年齢のことを言うと申し訳ないんですが、大半の方がだいたい65歳以上の方で、中にはまだ小さいお子さんをお持ちの主婦の方もいらっしゃいましたけれども、さきほど田邊さんが元気なお年寄りがたくさんいらっしゃる、きっかけづくりを、とこういってお話をいただきましたけれども、現実には現場で我々が把握しきれないところで年を重ねられた方がいろんな活動をされているというのを昨日も改めて認識もさせていただいて、昨日1時間半ほどいろんなお話もさせていただいたんですけれども、これだけ子どもたちのために図書の存続、図書館の存続と言いますかね、図書のそういう提供するサービスをやはりしっかり守っていかなければならないというふうなことを熱く語っていただいている方はたくさんいらっしゃいます。そういう意味で、この学校運営協議会なりあるいは協働本部のスタッフなりは掘り下げればもっともっと地域に密着して地域で活動されている方はたくさんいらっしゃると思いますので、そのあたりは教育委員会だけで把握しきれない部分があるかと思いますが、市役所の各部にはいろんな分野の民間のNPO団体なりあるいは各活動されている団体がありますので、そういう情報をお互いが共有しながらこの輪を広げていけるかなというふうに思うところでもあります。</p> <p>今日は本当に短い時間でしたけれども、貴重なご意見をたくさんいただきましてすぐに取り掛かれるような、あるいは具体的にその方向で検討できるような貴重なご意見をいただきまして本当にあり</p>

<p>福井市長</p>	<p>がとうございました。冒頭申し上げましたように、年度末をこれから迎える中で新年度の予算もさきほど少し触れさせていただきましたけれども、高島市の子どもたちにとってより良い教育環境を整えるためにはしっかりと必要な予算等については対応していく所存でありますので、引続きまして委員の皆さんにはご理解ご協力を賜りますようお願いを申し上げまして私の御礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。</p>
<p>大塚教育総務課長</p>	<p>皆さん、ありがとうございました。本日の皆さんからのご意見を参考に、つながり響き合う教育にしっかりと取り組んでまいりたいというふうに思います。本日は、長時間にわたりましてご協議いただきまして、本当にありがとうございました。</p>